

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



初代様直筆の手紙(海松ヶ岡分教会所蔵)

をやの思いをにをいかけ、

^{うちうち}
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一歩前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

秋季大祭講話

大教会長様お話し

立教の元一日は、「世界一列をたすけたい」という親心を啓かれた元一日です。

「世界一列をたすけたい」とはいつでも、親神様の自由の御守護ですべてをたすけてくださるのではなく、それは、人間創造に当たっての「人間が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたい」との思召に由来するということを、先ずしっかり考えなければなりません。

私たちは誰しも、幸せになりたいと思いますが、それは、親神様のお心そのものが私たちの心の中にあるからで、をやが「世界一列をたすけたい」という親心を持っておられるということは、私たち一人ひとりも「世界一列をたすけたい」という心にならしていただかなければなりません。

いま、でハセかいちううハ一れつに
めゑくしやんをしてわいれども 十二 89
なさけないとよにしやんしたとても
人をたすける心ないので 十二 90
これから八月日たのみや一れつわ

心しいかりいれかゑてくれ 十二 91

この心どふゆう事であるならば 十二 92

せかいたすける一ちよばかりを 十二 92

このさきハセかいちううハ一れつに 十二 93

よろづたがいいたすけするなら 十二 93

月日にもその心をばうけとりて 十二 94

どんなたすけもするともゑよ 十二 94

と、明らかに、おふで、さきにお示しいたします。

これから私たちが遣う心遣いはここだということ

とを示されたのが、天保九年十月二十六日の「世界一列たすけたい」というお言葉です。

肝心なのは、親神様・教祖を信じて手を合わせることではなく、私たちが、親神様・教祖にたすけていただくだけの理作りをすることです。そのためには私たち一人ひとりが、「世界一列をたすけたい」というところまで心を作らなければなりません。

教祖百二十年祭に向かって成人の歩みを進める

今、論達の精神は、人をたすける心の涵養と実践

ということを仰っています。

最初から「世界一列をたすけたい」というところ

ろまではいけません、目標はそこにしっかりと

持って、先ず目の前のところから、人をたすける

心と行ないを積み上げていくところに、「世界

一列をたすけたい」というところまで心が成人す

るのです。

つまり、成人の歩みとは、日々できる人だすけ

の心遣い・行ないを積み重ねることによって、「世

界一列をたすけたい」という大きなたすけ心に近

づくことです。

「人をたすける心」と言えばいかにも難しそ

うですが、そうではありません。日々の生活の中で

人をたすける心を遣い、その行ないをすることで

す。常に人をたすけるといふ心さえ持っていれば、

いろんな形で人だすけをすることが出来ます。

「たすけたい」、「たすかってもらいたい」と、

何とかして人をたすけていこうという思いを持ち

続ければ良いのです。そうする中に、日々の中で

知らず知らずに、人だすけの理を積み、人に尽く

す行ないに繋がってくるのです。そこが大事だと

仰っています。

先ず身近なところから少しでも人をたすけると

いう心と行ない、その積み重ねが大事で、その積

み重ねをそれこそ百二十年祭に向かってしっかりと

していこうということです。

一般の人はそれで充分でしょうが、よふぼくは

そういう訳にはいきません。親神様の「世界一列

たすけたい」といふお心を伝えていくためには、

よふぼくとしての人だすけの道はあります。

それは、実践項目として皆さん方と申し合わせをしています。

百万軒をいがけ…たった一枚の紙切れを通して一人でもたすかってもらいたい、書かれています。お言葉一つを読んでいただいても人々をたすける心に近づいてもらいたい、何とか、何とかと、その一つ一つの行ないに、人をたすける心に立て替わってもらいたいという思いを込めつつあるところに、よふぼくとしてのに、いがけ・おたすけの道があります。

ただポストへ入れるのとは違って、その心を遣うということを考えれば、をやの思いを少しでも伝えたいという思いを持ち続けながら、一つ一つの行ないに実践項目を積み重ねていくところに、よふぼくとしての人だすけの道があるのです。

年祭まで後一年二ヶ月余り。立派なことではないかもしれない、思うような成果が上がらないかもしれないけれども、成果や結果ではなく、それができる喜び、させてもらえる喜びを持ち続けずれば、大きな御守護を必ず見せてくださる。そのことをしっかりと心においてつとめたいと思います。

そして、もう一つ大事な角目を申せば、たすけの理を現わしてくださるのは、親神様・教祖であって、私たちがたすけるものではありません。

私たちがたすけるのなら、一生懸命、行ないや言葉でおたすけすればいいでしょうが、身上事情だけではなく、心までもたすかってもらうには、親神様・教祖にしっかりとおはたらきいただく必要があるということです。

おつとめもおさづけも、これは、私たちがそれでたすけてもらうのではなく、親神様がその理を受け取ってはたらいてくださる、親神様・教祖が入り込んでたらいてくださり、たすけの理を現わしてくださるのです。

それなら、親神様・教祖にはたらいていただけるような伏せ込み・理作りというものをしなければなりません。

私たちは、たすけ一条の道として、親孝行の道としても歩んでおりますが、それは、たすけの理を現わしていただくためです。

代が重なってくると、なぜご恩報じするのか、なぜ教会のためにするのか解らなくなってきました。何のためにご恩報じするのかといえば、人にとすかってもらいたいがために、親孝行もするということ、私たちは、改めて心におかなくてはならないと思います。

お互いに、代が重なって、教会長でもあるし、よふぼく・信者でもあります。

信仰するのだから当たり前というのではなく、お互い一人ひとりが、「世界一列たすけたい」と

いうお心に近づくことこそが、陽気ぐらしに向かう歩みであり、それがたすけ一条の道だということをしつかり心において、間違いなくその理が現われるようにつとめるといふ心をしつかり定めて通らなければ、ただお道を通ったというだけのことになりかねません。

おさづけの理をいただいたよふぼくなら、少なくともその自覚だけは持って、たすけ一条の理を現わしていただけるようにつとめることは大事だということをしつかりおいていただきたいと思えます。

生きるのに一生懸命の人もおられます。しかしながら、その中でも人だすけの道は素晴らしい道です。

皆さん方、立派なことをせよとは言いません。どうぞ、その心だけ、気持ちだけはしっかりと持ち続けて、できる精一杯のたすけ一条の道を、残された一年二ヶ月余り、百二十年祭に向かって共々につとめましょう。

どうぞよろしくお願いたします。

〈以上大要〉



本部

青年会総会報告

昨年、一昨年と不慮の出来事により、総会の前夜祭において笠岡分会は模擬店の出店が出来ず、委員一同残念な思いをして参りましたが、模擬店抽選会において新委員長である浅野明教君が見事出店の権利を得、うどんを販売することが出来ました。三年振りということで、準備や采配に戸惑いはありましたが、笠岡の女子青年や布教推進週間のキャラバン隊で親しくなった天大生、また青年会OBの先生方と共に和やかな雰囲気の中、勤めることができました。うどんの味も大変好評で、五百食用意した品全てを完売することができました。(後半、多少強引なところもありましたが)来年も必ずや出店して、大いに盛り上がっていきたいと思っていますので、多くの方々に当日の準備、販売に携わって下さいますようお願い申し上げます。

さて、総会当日は前日の雨も上がり、好天に恵まれて真柱様よりのお言葉を頂戴することが出来ました。お話の要点は二つありました。一つは、現在青年会本部が掲げています別席者の増加につ

いて、いま一つ盛り上がりに欠けていること、まず自らが教えに基づく生活態度を身に付け、成程の理を周囲に映してゆかねばならない、そうして周囲にお道の教えの素晴らしさを伝えてゆく。つまり身近なところから別席者増加の活動を推し進めてゆくことを教えて下さいました。もう一つは、結成五十周年を迎えたひのきしん隊への入隊についてでした。おちばに伏せ込むことの大切さをお聞かせ下さり、一人でも多くの方の入隊を要望されました。この原稿を執筆中の私は現在、ひのきしん隊に入隊しております。結成五十周年の節目の年ということで、どこの分会も一個班前後の人数で入隊しています。兄弟教会である池田分会は十六名、西宮分会は二十七名の入隊でした。ちなみに笠岡分会はたったの八名です。一人でも多くの入隊をうながされている真柱様に対して全く申し訳のない気持ちで日々ひのきしんにいそんでいるところがあります。私はこのひのきしん隊をもって委員長の任を解かれるのですが、新たな笠岡分会に期待し、陰ながら応援していきたいと存じます。

(青年会委員長 佐藤 真孝)



◆大教会 年末大掃除

【日 時】 12月22日(水)午後9時より

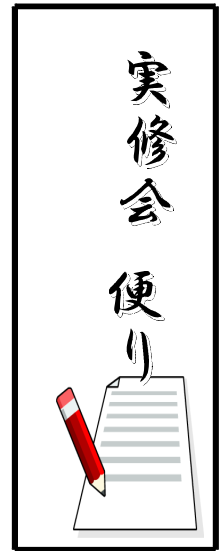
◆詰所 餅搗ひのきしん

【日 時】 12月27日(月) 午前7時より
前日より、準備ひのきしんがあります。

◆献血ひのきしん

【日 時】 1月21日(金) 大教会祭典後

奮ってご参加ください



またも救けられました！

明石市分教会長 杉原博之

10月17日、國須分教会へ、にをいがけ実修会の要員としてゆくことになった。

前もって大教会では、8月に御本部から先生をお呼び下さって、要員研修会が有り、にをいがけドリルの案内書を頂いた。

どうも若者向きのイラストというか、印刷内容に思え目がアッチ、コッチに跳ぶ程、多岐多彩に書かれている。このまま教会で配布しても難しいなあ。まだ若き50代(後2ヶ月は)なんだけどもうも苦手だ。情けないけど。

それで工夫してパソコンで作成替え、簡単明瞭に50代以上仕様にした。

皆さんにお渡しするプログラムを作りその中に、にをいがけドリルについての案内、チラシについての黙読、音読、良いと思う箇所の発表、添える言葉等々を入れる。いいとこ取りの優れたものと自画自賛。尤も何事も自画自賛しているタイプ

ではありません。

9月に既に実修会に行っているので、進め方は経験済みで何も心配はない。後は苦手な交通機関の順調な乗り方のみと楽観をしていた。これが失敗の元とは、後で気がつく唐変木という……。

当日は全く晴天秋晴れ、福山までJR、そこから中国バスで寺町経由、中須下まで、40分のバス旅行。頭の中には中須下が鳴り響いている。中須下とアナウンスがあればすかさず降りなければいけない。

のんびりバスは走る。福戸橋に通るかかると広い見晴らしの良いところに出た。ムニャムニャした何かよく分からない大きなモニュメントがある。バスを降りて案内を見たい気持ちになる。おべというアナウンスが有って車窓に遠く霞んで大きな山が見える。熊がおるんやろか?とぼうっと考える。気が緩んで眠くなってくる。いや寝てはいけない。乗り過ごしてしまう。

やっとアナウンスが有った。ボタンを押して大安心。それがいけなかった。何と気がついたら通り過ぎていた。

慌てて運転手さんに、中須下を(ボタン)押したでしょうという、誰も立ってこないからと言う。あんまりやけど、大体着いてから立つもんじゃないね。信仰者の辛いところ、じっと耐える。

300メートル程、歩いて戻る。福塩線の線路を渡っ

て、100メートル位で教会だ。神殿に上がる階段が有って正に教会という感じだ。

会長様と進行を打ち合わせさせて頂いて、いよいよ始めることが出来た。自信を持って始めたのだが、どうもうまく話しがつけない。何とか懸命に話しを続ける。

どうもやっぱり楽観の種を蒔いて努力をしなかったら、不首尾の実が実ったようだ。いつでも誠心誠意、努力の種をまいとかなといけないね。何とか参加の皆様の暖かい心に包まれて終えることが出来ました。

慣れたらアカン、常に心を引き締めて通ることを学んだ。相手はたすからなくても自分は間違いない。一つ学んでたすかすることができました。

有難いなあ。今度また行くことになったら頑張ります。

國須分教会会長様、奥様、皆様有り難うございました。



修養科生の声



親子四人で望んだ修養科

福節分教会 桑山 誠

私は、この度、妻と子供2人(小学三年生、一年生)の四人で修養科生活をさせて頂いております。親子四人で望んだ修養科生活も早いもので二ヶ月が過ぎ、残す処、後一ヶ月となりました。この二ヶ月の間、そして修養科に入学するまでの道中をここに綴らせていただきます。

私の家は、私で三代目となる天理教の信者で、子供のころから教会へは、良く参拝させて頂いておりました。しかし高校受験に失敗してから仕方なく親の勤めるままに夜間高校へ行き辛抱して大学へも行きましたが、事情があって、その大学も中退してしまい、そのころから天理教から足が遠のき始め、いつしか20年が過ぎていました。この20年間は、親の心も考へずに勝手、気ままな事をしてきたように思います。

そして今年の六月に勤めていた建設会社が、この不景気から、リストラ、希望退職者を募り初め、

又、丁度この時期に私のお金に対する執着から事情が始め、母の身上もあって教会に相談した所、修養科へ行ってみないかと勧められ入学しました。

当初は、私一人で行くかと思っていたのですが妻と子供二人三ヶ月残して行くものかどうか色々悩んでいたのですが、親神様にせきこまれるかのように色々事情、母の身上が急をつけ始め、この八月五日に家族四人で子供おぢば帰りに参加させて頂き、親神様の前で家族4人で修養科に入る心定めをし、入学しました。

入学を心定めてからは、不思議なくらい、私の事情・母の身上もおちつきはじめ、これも親神様の御守護があったのかなと改めて感じております。

修養科に入学してからの一ヶ月は、無我夢中で勤めていたように思います。朝夕のおつとめの練習、お手振り、みかぐらうた、鳴物、打物の練習、詰所のひのきしん、覚えなければいけないことがたくさんあって妻や子供の事を考へてあげる余裕がなく、そうしたら妻がカゼをひき、ノドが腫れ、私も軽いカゼをひき、妻と子供のことでケンカをするようになってしまいました。

しかし谷内先生におさづけをして頂き、妻の力でも良くなり、子供の事についても親が大きな心で、修養科生としてするべきことをしていたら、

子供は大丈夫です。すっかり修業しなさいとさとされ、それからは、家族の絆も深まったように思います。

二ヶ月目に入ってから、妻も私も体調が良くなり、家族が明るくなり妻と一緒にひのきしんをさせて頂き、大変よろこび感動しました。

みかぐらうたに「夫婦そろってひのきしんこれがいちものだねや」、それからというもの、させて頂く色々なひのきしん一つ、に違った喜びがあり、ひのきしんをさせて頂けるこの身体を与へて下さった親神様に感謝の念でいっぱいです。

最後に、この三ヶ月間お世話になった、谷内先生、今川先生、高島先生、宮本先生、詰所の吉岡先生はじめ諸先生方、修養科生の皆さんのために、家族四人で共に喜びいさんと修養科生活を終へたいと思います。



修養科まなびの日々

稲瀬分教会 岩田典子

修養科も九月に入学して早三ヶ月目。おぢばの



木々の紅葉が神殿の豊いなかに映えて美しい。

「一ツひろいせかいをうちまわり・・・」今夜も修練場に「みかぐらうた」がひびく。修養科に入って毎夜夕勤めのとのおどりの練習。思い起こせば私にとっては初めての経験で、谷内先生から「ハイ、右足を出して！」と言われるのに左足が出てみたり、手と足の動きがバラバラ、そのうえ一拍おくれ、まちがうたびにやり直し・・・と手のつけようのない私のおどり。まわりの仲間のお地にのった、さり気ない動きとはうらはらである。こんな私も教養掛の先生が私のペースで手とり足とり辛抱強く指導くださっているお陰で、少しづつではあるがなんとか様になってきている。ところが残念なことに、翌日になるとすつ

かり忘れていくことが多く、なかなか難儀な手おどりである。

私は修養科第七六一期一〇六組四十五名のクラスの一員となった。クラスの仲間は全国から集まった。年令もさまざまである。しかし修養科に入学した動機は各々だが、誰もが「今までの自分から生まれかわりたい！」と語る姿があった。入学して間なしの頃、あるおばあちゃんが「教祖は『因縁よせて守護する』という。ここにおける人は互いに自分の姿を写している鏡や。相手の姿を見てイヤだったら直す努力せなあかんのや！」と話してくれた。

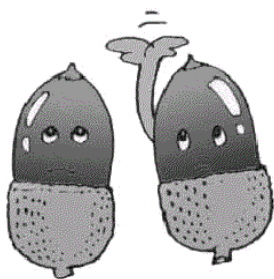
日々学校の授業やひのきしんなど盛りだくさんなスケジュールの中で、少しずつまわりの仲間との語らいも増えて親しくなってくるにつれ、クラスの中で「私にできることは何だろう？」と自分のもてる力を身近な人や地域で役立てたいという気持ちを行動にうつす姿が見えてきた。毎日通学する道端のゴミひろい・車椅子を押ししたり、重い荷物を持ってあげるなどさりげない姿がそこかしこに見られ、する側にも、してもらう側にも笑顔があるのを見ると、教祖わかさまの「人を助けてわが身助かる」という教えのすばらしさを実感させていた

だいている。詰所でも教養掛の谷内先生から「日々の生活の中で自分の心の琴線にふれた喜びを書きとめてみ

よう」という提案があり「よろこびさがし」がスタート。今まで見すごしていたあたりまえのことも自分の心の向きをかえてみると、喜びがあることを学ばせていただいている。先生からは明日の見方につながるコメントもあり、これからの私たちの指針として大切にしていきたいと思う。

教祖の懐に抱かれたおぢばに住む人たちの「遠い所ごろうさん！」という声かけや布留川のせせらぎ・道端の小さな草花が少し疲れた私たちの心をいやしてくれる。

学びの日々はまだまだ続く。三ヶ月前の私とどこか違って私に出会うために・・・。



談話室



父母を想^{おも}う

高千恵布教所 岡崎悦子

私の心の中にはいつも祖母、父母が生きてつづけています。恋しく心の支えとなっています。生活の中で父なら、母なら、祖母なら、こういう時、どのように考え判断して、どのようにするか？と心の中で問答をはじめている自分に気づきます。

私は七人兄弟の長子として昭和六年に生まれ大切に育ちました。と申ししても布教所ですから、裕福に育った訳ではありません。前近代的な生活でしたが、今考えて見て何の不足もなく、思い出すことはなつかしいことばかりです。

祖母、父母から教祖の話、こかん様の話をわかりやすく聞かせてもらい、物はなくても十分に満足を与えられました。

ある冬の朝早くおこされて、一銭銅貨をザルに入れ大ぶろしきに包んで豆腐屋へおからを買いに行ったことがあります。湯気の中でとうふ作り

を物珍らしく見て、おからをいれてもらって、すっかり暖まり家へ帰りました。ザルについたおからを庭先へはたいて、白く散らばった様子を雪に見たてて、弟をびっくりさせたと本当になつかしく思いおこします。

父は夜やすむ前に、いろいろ話をしてくれました。昔話もありましたが、今から考えますと道の子として、心が育つようにと願いをもっていて、一例「どんなお金持ちの家に生まれていても、ほしい、ほしいという気持ちいっぱいであれもこれもほしい、あゝしてもらいたいと、皆にしてみらうことばっかりの気持ちいっぱいでしたら、今度生まれてくる時おこさん(こじき、物もらい)の子どもに生まれてきても仕方がないんで。」と話し、生まれ変わり、魂の生きとおしについて等、わかりやすく話し、小さいながらも私の胸は心づかいの大切さを十分納得でき、その教は今も生きております。

祖母や母は「私たちは皆生きて命をいただいているんですよ。なっぱ一枚、お米一粒でも勿体ない。そまつにすると自分の命をそまつにしているといっしょだよ。」といろいろな物を大切に生かして見せては、勿体ないという心を育ててくれました。

母は娘時代苦勞の中から早稲田大学女学部を卒業していました。大きな卒業証書ができてびっ

くりし、大変な努力家だったと尊敬しています。この事は私に大きな夢を与えてくれました。父の出直後大変な中を徒歩でおちば帰りをしました。私は「あんまり無謀な」と腹立たしく思ったりしたことを今更のように申し訳なくお詫びをしています。勤務中時々職員旅行に参加しましたが、事前に神様にお礼申し上げるように教えてくれた母でした。

此の度この稿のご命を頂き、結局やっぱ祖母、父母のことを思い浮べました。お陰さまでなつかしい数々の思い出がよみがえりやさしかった面影、笑顔に心が満たされています。時々夢で出会うことがあり、うれしさにその都度神様にお礼申し上げます。そして又ツギきを期待してまいります。

ありがとうございます。



最近思うこと

雲東分教会 三代 美音

私は、一信者の立場から教会に嫁いで来ました。高校の終り頃から、毎日学校の帰りに日参させて頂き、高校を卒業すると会長様(國須分教会橋高キヌヨ前会長)に勧められ専修科に行かせて頂き、卒業後は、詰所の会長宅で一年間伏せ込みの勤めをさせて頂きました。そのうち、会長様に働きたいと申し出ると、今度は、「修養科に入ってから!」と言われ、素直に修養科に行かせて頂き、それからようやく一般の会社に勤める事になりました。

会長様との約束で、十一日の祭典は休みをとり、つとめさせて頂いていました。因縁を自覚された会長様のたすけ一条の通り方は、自らにも厳しく又、私達にも厳しいものでしたが、会長様の周りには、不思議な御守護が眼を見張る程溢れています。そんな会長様のお導きで、本当に神様はおられる!“と強く肌身を感じていました。

縁あり教会に嫁いだから、一信者の立場で通ると、教会の内の者の立場で通るとではギャップが大きく、私の心から、神様がいつしか形だけになっていると強く感じる様になりました。雲東の前会長がいつも「二代真柱様が、天理教とはな

んぞやと聞かれたら、天理教とは俺を見よ”とおっしゃった。なかなか難しいが、わざわざにほいがけに出んでも己を見せるとにほいがけになる、そんな通り方をしなきゃいかん。」と事ある毎に厳しく仕込んで下さる。本当にそうだと思います。

その為には、日々親神様・教祖にお喜び頂ける通り方をする事なのですが、不徳な私にはわかっているけどなかなか難しい事であり、度重ねて云われると「私なりに頑張っているのに。」とつい反発し不足してしまいます。

そんな私ですが、不思議な事に、教祖が先回りをして、おたすけ先を次々と作って下さるのです。おたすけをさせて頂いている時が、一番神様を身近に感じ、教祖にすがり、なんとか助かって頂こうと、自分なりに心定めをし頑張れるからです。

これからも、主人にささえられながら、一歩ずつ、一歩ずつ、成人への道を焦らないで歩もうと思えます。



・原・稿・募・集・

内 容

- ①小随筆、②教会・布教所の独自の活動の紹介、
③俳句・和歌・川柳、④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字)
題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。
俳句等は1句からでも結構です。

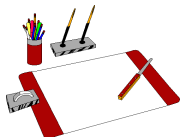
寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



こころの詩

▼東濱十三雄さん(福順分教会長)よりの寄稿です。

マゴウタ

初孫の笑顔 泣き声 手の仕草

大人達の目 一つに集め

喜びも悲しみも 語り草なり 老の身に

今年嬉し 華のおとずれ

夕勤め 終わりにてなぜか 静かなり

孫の寝顔は 幸せに満つ

▼黒瀬修式さん(油木分教会長)よりの寄稿です。

道中詩

今は亡き親の信仰受け継いで

成人遅々を悔む今日

心苦してたれに話すすべもなく

花と語りて心静かに

口ずさむうたの心が理にふれて

あふれる涙心安らぐ

道の花厳しき中に咲く花よ

一に勢い開花目指して



▼養徳社発行『陽気』誌十一月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「命」、撰五十三句中、笠岡に繋がる教友の方一名、

一句が見事撰ばれ掲載されていきましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

秀詠 東悠分教会長夫人 田林 美智子

親神の守護に感謝の命名日



実践項目集計 (9月)

百万軒にをいがけ	107,373軒
おさづけのお取次	4,340回
身上事情お願い	835件
提出教会	120ヶ所

秋季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には「人間が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたい」との思召からこの世と人間をお創造はしめ下され十全の御守護をもってお育て下さっているばかりでなく一列子供が陽気ぐらしとかけ離れて行くと危惧されるや旬刻限の到来を待ってこの世の表にお現われになり教祖を月日の社とお定めになられて元の理を明かしそのいんねんがある故に世界一列救済したいとの親心も明かされてこれのたすけ一条の道をおつけ下さいました事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は教祖の口や筆を通して直まに御教えに触れ又行いを通してひながたに触れ親心の有難さとたすけ一条の大切さを感じさせて頂いて日々は朝夕に御礼申し上げると共に届かぬながらも精一杯にたすけ一条の御用の上に勤め励まして頂いております

その中にもこの月二十六日は親神様が教祖を通して直々にお現われになり世界救済をお啓示ひらされた立教の元一日でございますのでおぢばでは秋の大祭が執り行なわれます その理をお許し戴いてこれの教会でも秋の大祭を執り行なうべく只今からおつとめ奉仕者一同今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達のお歌の唱和と相共に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 皆の一手一つにおつとめに込める真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて本年は教祖年祭に向けての成人の歩みの二年目に当り親神様より大風水つき等を通して大変厳しいお仕込みを頂いております これは「月日の残念立腹」とお聞かせ頂きますが単に御守護の世界である事を忘れ人間が我が力と過信し驕り高ぶり喜びと感謝の心を忘れてしまっている事に対してのみならずむしろ「なさないとのよにしゃんしたとても人をたすける心ないので」とお聞かせ頂くように我身助かりたいばかりで人を救ける心がない事に対してのものとして頂きます 今私共は教祖年祭に向け三つの実践項目を申し合わせ実動させて頂いております 確かに実動そのものが目的でもありますが本当の目的はやはり人を救ける心になって頂く事にある事を改めて心定めし年祭までに残された一年二ヶ月余り親の思召を伝えるべくしっかりとたすけ一条に邁進させて頂く覚悟でございます

又たすけ一条の上でたすけの理をお現し下さるのは親神様教祖でございます 親にお働き頂くためには親への伏せ込み理作りが大切とも思わせて頂きます その上からその一つの手立てとして来る十一月二十八日別席伏せ込みひのきしん団参をさせて頂く所存でございます

何卒親神様には旬の御用の上に真実込めて勤める皆の誠の心をお受取り下さいまして万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り人々の心が人を救ける心に立て替わりましてお望み下さる陽気づくめの世の状が一日も早く実現しますようお願い申し上げます

大教会だより

II 教会指令 II

◎任命願

天場山 分教会

*前任 仙田 喜久雄

*新任 仙田 公男

☆奉告祭 立教167年11月14日

立教167年10月26日承認

◎任命願

神村 分教会

*前任 下田 輝夫

*新任 下田 誠輝

☆奉告祭 立教167年11月14日

立教167年10月26日承認

◎教会長資格検定講習会修了者

前期 立教167年11月14日終講

稲瀬 三宅 道世



とある地方競馬場。最終レース「エイ争奪牡馬選抜オープン・距離無制限」の発走が近づいた。久々のテレビ中継だ。

アナウンサー「今日は出走8頭の調教ぶりを常に間近で見えておられる。ザ：うま。の元編集長Sさんをゲストに迎えお伝えします。まずレース展開をどう読めますか？」
S氏「なんととってもワイルドボーイ中心に進むでしょう。これまで数

度のビッグレースを経験し、ここ一番のクソ度胸は天下一品。他馬のジョッキーもワイルドボーイの走りに注目。ムチの入れ時が勝負の明暗を分けるでしょう。」

アナ「他に注目馬は？」

S氏「トーフクザンプレスでしょうか。厳しい夏場、中央競馬で頑張り、

先日は北海道でも走ったそうで、他馬主もうらやんでいたとか。」

雲一つない秋空に発走ファンファーレが響き渡った。風もなく馬場

状態も最高。

が、何と各馬ゲート前で右往左往。

全く出走の気配なし。

業を煮した同競馬場理事長、ゲートに向って一直線。高齢のせいか足元がおぼつかない。手振りを交え各馬に何か訴えているが反応なし。ついにワイルドボーイの耳を引っ張り、耳元に口をつけ大声で喋りだした。

アナ「何を言ってるのでしょうか？」

S氏「甲高く早口で細かいところまでは分らないが『品位と権威あるこのレースを何とと思っているのか。そ

これらの草競馬と一緒にするな。今は競馬界にとっての大事事を2年後に控えた大切な時なんだ。とに角、皆を引き連れて突っ走れ！」という事です。」

アナ「成程。確かにその通りですが

馬の耳に念仏」と感じるのは私だけでしょうか？」

発走にはまだ少々時間がかかる模様。

私達は旬の声、親の声をしっかりと受けとめて、決って、馬の耳に念仏」とならぬ様つとめさせて頂く事が今の責務だ。
(よ)

